

6. 学術委員会報告

日本数学会国際研究集会(MSJ-IRI)について、3件報告します。

第14回MSJ-IRI について

ファーストアナウンスメントが公表されました。概要は以下の通りです。

第14回日本数学会国際研究集会「漸近解析と特異性」

(The 14th MSJ-IRI on Asymptotic Analysis and Singularity)

主催：日本数学会，東北大学大学院理学研究科数学専攻

開催日程：2005年7月18日（日）
～7月27日（水）

（7月22日，23日はお休み）

開催場所：仙台国際センター

組織委員：堤誉志雄（委員長，京大理），小園英雄（副委員長，東大理），柳田英二（東大理），田中和永（早稲田大理工）

連続講演者（4回連続講演者）：

Terence Tao (UCLA, USA),
Dongho Chae (Seoul University, Korea),
Wei-Ming Ni (University of Minnesota, USA),
Bernold Fiedler (Free University of Berlin, Germany)

特別講演者：

Boris Buffoni (Swiss Federal Institute of Technology-Lausanne, Switzerland),
Fanghua Lin (Courant Institute, USA),
Carlos Kenig (University of Chicago, USA),
Alan Rendall (Max Plank Institut for Gravitational Physics, Germany),
Francois Hamel (University of Aix-Marseille III, France)
（その他9名の方と交渉中）

上記の連続講演および特別講演の他に，一般講演を募集する予定です。

なお，以下のインターネットサイトに，

新しい情報を順次掲載致します。

URL: <http://www.math.tohoku.ac.jp/~aas/>

第15回MSJ-IRIのテーマ採択について

第15回MSJ-IRI（2006年度開催）のテーマ公募に対し，つぎの2件（到着日付順）の応募がありました。

- (1) 非可換な対象を扱う数学の手法について
Mathematical Methods for Noncommutativity
- (2) 第11回差分方程式とその応用の国際会議
The 11th International Conference on Difference Equations and Applications

テーマ選考のため，6月5日に選考委員会を開催しました。審議の結果，(1)を理事会に推薦することと決定し，理事会に報告したところ，6月の月例理事会は，開催計画が国内開催を想定して作られたテーマ募集要項の条件を満たさず採択できないと判断，選考結果は選考委員会に差し戻されました。これを受け，選考委員会はメール審議を開始し，(1)は候補から除外することを確認，さらに(2)の採否の判断は理事会に委ねることと決定し，理事会に再報告しました。7月の月例理事会では，テーマを

差分方程式とその応用に関する国際研究集会に変更した上で，(2)の採択が仮承認され，その後承認が確定しました。

選考経過を要約します。両提案とも内容的には十分水準を満たすとの意見が大勢でした。一方，(1)については海外（フランス）での開催計画であること，また(1)はIHESとの共催，(2)はすでに9年間に渡って継続的に開催されている国際研究集会の第11回目であり，いずれも開催主体は日本数学会とする要件を堅持できるかという疑問が指摘されました。その上で，両者を日本数学会の将来を見据えた新しい提案と捉え，より飛躍の大きい(1)を推すこととし，理事会に報告しました。この選考結果に対し，理事会では今回のテーマ募集要項によれば海外開催は受入れられないとの判断があり，選考結果は選考委員会に差し戻されました。

これを受け、選考委員会は再度審議を行いました。(1)に対する理事会の募集文面解釈を吟味し、その判断が説得力をもつこと、および、提案(2)の内容は、離散力学系を核とし、工学や経済学に関わる学際的分野に広がりを持たせる意欲的な計画である事を確認しました。その上で、(2)についても数学会の主体性の確保に対する疑問は残るという結論に至り、(2)の学術的内容は高水準にあると評価した上で、採否の判断は理事会に委ねるという報告をしました。7月10日の理事会では、指摘された疑問点について、テーマ提案者に関催に関わる関連組織からの確認を求め、回答が肯定的であることを前提に、テーマを微少変更して(2)を採択することが仮承認されました。その後テーマ提案者から、主催は日本数学会と京都大学経済研究所による開催で問題なしとの回答があり、採択が確定しました。

採択された MSJ-IRI の概要は以下の通りです。

第15回日本数学会国際研究集会の概略

研究集会名称：差分方程式とその応用の国際研究集会

(11th International Conference on Difference Equations and Applications)

主催：日本数学会、京都大学経済研究所

開催予定地：京都

開催予定時期：2006年度中

提案者：戸瀬信之（慶應大経済）

規定により、今回の選考委員会名簿を公表します：重川一郎，二木昭人，柴田良弘，宮本雅彦，磯崎洋，河野俊丈（以上選考委員），小島定吉（学術委員会委員長）。

．MSJ-IRI の枠組みの見直しについて

今回の MSJ-IRI テーマ募集に対して、これまでの枠組みには収まらない提案があったのを機会に、選考委員会の理事会への報告と同時に、学術委員会は MSJ-IRI の枠組みの見直しを提言しました。この件は6月19日の理事会で承認され、学術委員会が中心となり秋季総合分科会での定例学術委員会

で検討を開始します。会員の皆さまのご意見をお待ちしています。9月17日までに学術委員会委員長までお寄せ下さい。

（学術委員会委員長 小島定吉記）